

若い力を集結して宿願の優勝を果たした松山シーサイドチームのメンバー



第22回四国クラブ対抗決勝(8月22日、鳴門カントリークラブ) 常連、新顔チーム入り混じったの熱戦が展開された。1位から3位までがそれぞれ2打差という大接戦のすえ、昨年2位に甘んじた松山シーサイドが若手の活躍で念願の初優勝を手にした。

# 松山シーサイド初V

## 第22回四国クラブ対抗決勝

### 若手を集結 個人は奥山(鳴門)

松山シーサイドが若手の活躍で念願の初優勝を手にした。

今年で22回を重ねたこの大会、一時は廃止論の出た時期もあったが、倶楽部の名譽をかけた支配人、監督、アドバイザー、選手が一丸となって戦う団体戦には、他の選手権とは違った緊迫感と面白さがあり、今回は見ごたえのある大会だった。成績次のとおり。

- ▽個人の部 ①奥山慎一郎(鳴門) 66 ②宮内信太郎(道後) 67 ③正木洋司(大洲) 桑原孝幸(松山シーサイド) いずれも69
- ①松山シーサイド518 ②道後520 ③鳴門522 ④今治530 ⑤スポーツ振興四万十533 ⑥パシフィック534 ⑦スポーツ振興新阿波537 ⑧御所539 ⑨レオマ高原540 ⑩宇和島542 ⑪屋島546 ⑫大洲547 ⑬高松グラウンド547 ⑭志度549 ⑮錦山554 ⑯高松556 ⑰ロイヤル高松557

## 賑やかに華やかに

### 初の四国レディース開く

#### 第1回四国レディースゴルフ大会



笑顔晴れやかに。奥から岡、藤田、川西、石井、浮田の各選手

第1回四国レディースゴルフ大会(9月4日、新居浜カントリー倶楽部) 5532ヤード、パー72、153人参加。30度を超す猛暑の中、参加選手は力いっぱいプレーで連盟初のアンダーパレーを盛り上げてくれた。大半の選手は公式競技に参加した経験がなく、進行の遅れが心配された。

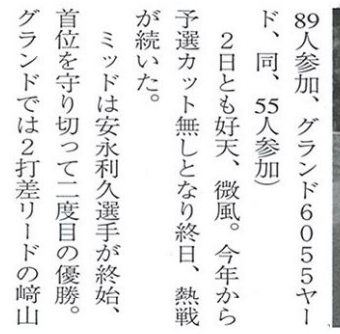
配されたが、一人の失格者もなく順調に予定時間内で終了した。競技成績は10位以内に50〜60歳代選手が半数を占め元気なところを見せた。成績次のとおり(入賞5位まで)。

- ①岡佐智子(琴南) ネット65、ンディ24、グロス89 ②藤田良子(新居浜) 69、19、88 ③川西章子(屋島) 69、8、77 ④石井正美(新居浜) 70、27、97 ⑤浮田富子(松山国際) 70、14、84

「きょうはパットが良くなったわ」。ホールアウトした宮崎治子さん(北条CC)、少しお疲れ気味に見えたが、表情はあくまでも若々しい。とても参加選手の最年長70歳にはみえない。

- ▽主人の影響を受けゴルフを始めて22年。ハンディはずっと25のままだが、ゴルフを通して夫婦、親子、友人との絆を深めてきた。
- レディース大会には「息子の嫁をさそってきた」とか。表彰式で親子参加の特別賞を贈られた宮崎さん、賞品の胡蝶蘭を手に「とても楽しかった」とニコリ。
- ①和田健太郎(明徳高1年) 146 ②仁木海渡(香川西高3年) 149 ③下田智雅(明徳高3年) 150
- ▽男子12〜14歳の部 ①立川祐太郎(勝中2年) 161 ②笠岡宣裕(明徳中3年) 168 ③河野祐輝(旭中2年) 170
- ▽女子15〜17歳の部 ①中村美沙子(明徳高2年) 146 ②横山陽子(同) 148

ミッド安永(松山) グランド崎山(北) 第9回四国ミッド・グランドシニア選手権(10月9・10日、サンセットヒルズカントリークラブ、ミッド6464ヤード、パー72、89人参加、グランド6055ヤード、同、55人参加) 2日とも好天、微風。今年から予選カット無しとなり終日、熱戦が続いた。



安永利久選手



崎山一茂選手

井出(今治)が初陣優勝 シニア実力新人増えて激戦 2・3日、四国カントリークラブ65 51ヤード、パー72、171人参加) 今年55歳でシニア入りしたばかりの井出功選手(今治)が初優勝を果たし、昭和62年度の四国アマに続く二回目の四国タイトルを手にした。

井出選手は、最終日の前半、2選手に追いつかれたが、バックナインに入り12番ロングホールでイーグル、さらに17番ミドルパーディーを決めて追撃を振り切った。通算3アンダーは見事なスコアだ。

- シニア競技はこのところ実力のある新人選手が増え、レベルが非常に高くなっている。今後も激しい優勝争いが期待されている。
- なお、上位3選手が日本シニア選手権(11月20・22日、兵庫県小野東洋GC)への出場権を獲得した。成績次のとおり。
- ①井出功(今治) 141 ②佐伯賢二(松山) 143 ③真井純二(御所) 上村親之(パシフィック) 坂野明宏(クラシック) 岡本忠広(鳴門) いずれも145
- 陽子(香川西高3年) 147 ③前田陽子(同) 148
- ▽女子12〜14歳の部 ①秋山紗恵子(明徳中3年) 144 ②綾田絃子(紫雲中3年) 152 ③坂本優里(椿中2年) 156
- ▽小学生の部 ①松山英樹(雄郡小5年) 154 ②渡辺康(富田小6年) 160 ③原敏之(香南小5年) 162

一年生和田に栄冠 四国ジュニア高校の部 第22回四国ジュニア選手権(7月24・25日、北条カントリー倶楽部) 男子6712ヤード、パー72参加105人、女子5746ヤード、パー72、参加26人、小学生オープン5274ヤード、パー72、参加7人

今年から選手の健康に配慮して乗用カーの使用条件などを緩和した。高校の部の優勝者は男子が1年生、女子は2年生で来年に期待が持てそう。中学の部では女子の優勝スコアが通算パープレーだったのは立派。また小学生では、松山選手の将来性が注目された。最終成績次のとおり。(3位まで)

横峰(明徳)全国制覇 日本ジュニア高校女子 平成十四年度の第8回日本ジュニア選手権(8月15・16日、埼玉霞ヶ関CC) 女子15〜17歳の部で横峰さくら選手(明徳義塾高2年)が通算141の3アンダーで初優勝した。

第1日を4アンダーでリードした横峰選手は、最終日を1オーバーで手堅くまとめ逃げ切った。注目の宮里藍選手(東北高2年)は、首位横峰に1打差まで迫ったが、昨年に次いで2位に終わった。



# おろが倶楽部でござる

## 其の九 徳島カントリー倶楽部

昭和四十五年十月二十六日が、おろが倶楽部の誕生日です。

徳島市の中心から西へ十三キロ、清流鮎喰川南岸の丘陵地に竹村秀夫氏の設計、日本国土開発の施工で建設された関東風のフラットで広々とした18ホール（6800ヤード、パー72）です。徳島県で三番目、四国では十五番目のオープンでした。

### ゴルフ人口千人から

当時、徳島県内のゴルフ人口は千人足らずと言われていて、果たして営業が成り立つのか心配されました。幸い折からのゴルフブームが追い風となって順調に集客することができましたが、ゴルフ人口をいかに増やすかが私どもの最大テーマとなったのです。

そこで誰もがゴルフを気軽に



時の女子プロゴルフ協会会長で旧知の中村寅吉氏にお願いしたところ快諾をいただきました。昭和五十六年四月の第一回大会では樋口久子、岡本綾子両プロの劇的なプレーオフ決戦となり、萬余のギャラリーの声援のなか樋口選手が優勝しました。以後、平成三年まで当倶楽部を舞台にトッププロの名勝負の数々を県民に直接お見せできて、ゴルフ

楽しんでもらえるような企画画作りに知恵を絞りました。昭和四十七年から始めた「徳島県市対抗ゴルフ」もその一例。

七人だった参加者は、今では二百四十人の募集枠が数日で埋まるほどの人気大会に成長しました。こうした多彩な企画運営が実

## 底辺拡大を地道な努力 最大課題に 続け30余年

箱根駅伝をヒントにした企画で、クラブメンバーだけでなく一般ゴルファーも加えての地区対抗競技です。徳島新聞社主催競技として今年で三十回。県内市町村から三十チーム、二百四十人が参加し記念大会を盛大に開催しました。

同じく今年で三十回を数える大会に「月の宮桜花杯女子アマゴルフ」があります。第一回は

## お四国随想

### 手島皓一

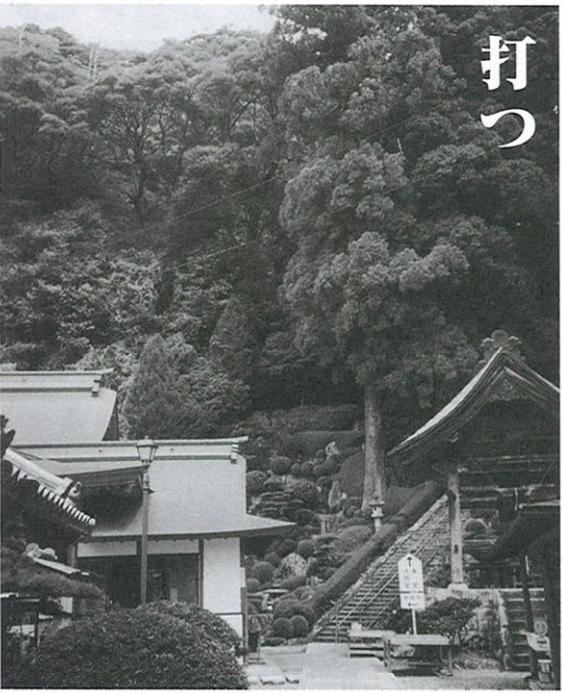
巡礼することを「打つ」と言うことは前に述べた。今から書くことは順打ち時には「ばらばら」打ちになるが許しをこう。何が何でも一番札所は最初に書かねばならないだろう。八十八ヶ所は徳島県から始まって時計回りに四国を廻っているが、なんで徳島から始まるのか後で記す。

八十八ヶ所を人間人生に例えて四つに分け、徳島県の二十三ヶ所をすべて「発心の道場」と呼ぶ。一番札所は鳴門市大麻にある。高速高松―徳島道を坂東で降り、県道12号線を東に行くと、すぐ一番札所笠和山一乗院霊山寺がある。名前は「りょうぜんじ」と読む。

近くに大正時代、第一次大戦で青島にいたドイツ軍人の捕虜収容所があった。その記念館がドイツ館で今でも相互の子孫が親睦を続けている。余談になるが明治や大正時代の日本の戦時捕虜の扱いは非常に

の第九を歌ったところである（新渡戸稲造博士著「武士道」、英語で書かれた世界に向けての日本紹介本。世界的に絶賛を博した。

需品一切を売っているから寺は儲かっているだろうと思う、と言えば余計なことを言うな、これも宗教学者だと言って叱られそうだ。



### 打つ

寛大で、松山でも日露戦争のロシア人捕虜が道後温泉で芸者遊びが出来ていた。日本人の武士道的心情がよく現れている。その縁で徳島は日本で一番先にベーターベン

徳島県内のゴルフ場もこの近くに集まっている。他の遠いゴルフ場も一時間少して行ける。また近くに大谷焼の窯元がある。この寺の売店では服装一式、必

徳島カントリー倶楽部  
〒779-3133徳島県徳島市入田町月ノ宮227  
TEL : 088-644-3636

### ジュニア育成に力

昭和六十一年から小・中・高校生を対象にしたジュニアゴルフスクールを当倶楽部に開設、プロの指導のもとで技術、マナーなどを習得させています。今年も十七期二十二人が研修中で、ゴルフを通して子供たちの健全育成に役立っていると確信しています。卒業生からはプロ選手もいます。

れています。女子ツアーで活躍している坂東貴代プロ、吉田敬三プロ、四国アマ連覇の谷口拓也選手の三人で、ゴルフ界の明日のリーダーが当スクールから誕生することを夢見ています。このほか当倶楽部は社会貢献の一環として、「心身障害者基金」を設け、来場者の方々からの浄財を毎年県内施設に贈っています。基金の合計は、この二十九年間で六千五百万円を超えました。そして、こうした地道な活動をしっかりと支えてくれているのが、後藤田英治理事長です。今年九十一歳、日本ゴルフ協会などの重職を担い、かくしゃくとして活躍中です。おろが倶楽部の誇りであります。（鈴木美二・徳島カントリー倶楽部常務理事・総支配人）

## 高知、少年女子でV よさこい高知国体ゴルフ

第57回国民体育大会「よさこい国体」のゴルフ競技（9月21、23日）は、高知県夜須町の土佐CCなど四会場で成人男女、少年男女4競技が行われ高知、香川の四国勢の健闘が目立った。高知チームは少年女子でエース横峯さくら選手（明德義塾高）が通算10アンダーと大活躍、逆転優勝した。また一般成人男子では、今年の四国アマ優勝の山本隆充選手、2位の山中陽生選手を軸に好スタートしたが、優勝した広島にわずかに打差で2位タイに終わったほか少年男子は4位タイ、成人女子8位と期待どおり全競技に入賞を果たした。

釜山アジア大会のゴルフ競技日本代表に選ばれた横峰さくら選手（明德高）は、宮里藍（東北高）上原彩子（パームヒルズ）両選手と女子競技に出場。団体戦で銀メダル、個人戦は7位だった。一層の拡大めざす 市町村ゴルフ支援事業 四国ゴルフ連盟が今年度から取り組んでいる市町村ゴルフ大会などへの支援事業が順調に進んでいる。ゴルフが国民体育大会の正式種目になり、国民スポーツとして認知されたのを機に、より一層の競技の振興を目的にスタートした新規事業で、支援の対象は自治体や体育協会など公的機関の主催する大会。これまで支援を承認した大会は十月十日現在で二十四件、競技参加総数は三千八百五十四人。うち参加者二百人以上の大会は九件だった。大会名には「親睦」「チャリティ」「市民・町民」などが付いており、ゴルフ競技をコミュニティづくりの役に立てようとしていることがうかがえる。支援大会には、四国ゴルフ連盟からの賞状、優勝メダルなどが提供されるので「重みがつく」との声も聞かれる。今のところ愛媛、香川からの申請が中心で、PR不足が指摘されている。今後は当事業の趣旨をさらに周知し、支援大会を増やす考えだ。

### 編集を終えて

やっとな秋風が立ち、今年度の主催競技がすべて終わってホッとしているところ。それにしても今年の夏の暑さは格別でした。今シーズンからスタートした四国レディースゴルフも残暑厳しい中で大会となり、参加選手は体調や競技の進行を心配しましたが、取り越し苦労に終わったのは幸いでした。▲この大会、連盟の主催競技としては初めてのアンダーハンディ方式で、日本ゴルフ協

会の公式ルールを適用しました。参加選手の大半は公式競技に無縁の方々だったので、倶楽部の月例などとは一味違った緊張感を味わってもらえたと思います。私どもはこの大会に「緊張感と華やかさ」を期待しているので、まずは大成功だったと自賛しています。来年からは開催日の調整など参加しやすいよう工夫する考えです。▲今年一月号から始めた「お四国味の倶楽部対抗」は記事の都合で休載しました。お勧めの献立、ご一報下さい。（E）